

女性同窓生エッセイ一期一会 第4回 四方ゆかりさん (81期)

1 関東同窓会との最初のきっかけ

私は50歳と少しで会社生活を卒業し、仕事中心の人生でなく次のステージへと舵を切りました。そんな時同窓生に、女性同窓生の年次交流会へ誘っていただきました。どんな集まりかもわからず、源氏物語の先輩の講演があるというので覗いてみたわけです。そうしたら70代、80代の先輩女性たちが年齢をものともせず、積極的に人生を切り開いて日々充実して生きていらっしゃるのを知り、とても感銘を受けました。考えてみればほとんど男子校のような時代に、上田高校に進み、東京に出てきて大学を卒業したというのはいすごいことだったのでしょう。そういうすばらしい先輩方がいらっしゃるというのは、誇らしいことだと思いました。そんな縁で女性の会のお手伝いをし、気がついたら関東同窓会の役員も2期目を務めていたという背景です。

2 関東同窓会に想うこと期待すること

私は大学の同窓会の役員もしていますが、会の悩みは共通しています。会員数の減少、会費納入の低迷、高齢化など。また関東同窓会の場合はそこに地元志向が加わり、東京の大学に出てくる人数が減っています。確かに親の負担も大きく、また無理してよい大学を出なくてもという親の意向もあるように思います。時代が移り変わり、会員のニーズも変化し多様化しています。定年に近づいたから同窓会に興味をもってくれる、同窓生の活動に参加してくれるというのは、今の50代には当てはまりません。自分の時間とお金の使い方意識が高い、そういう世代のはしりです。幅広い募金集めには苦勞するのに、使用の目的が明確なクラウドファンディングにはさっと資金が集まる世の中です。同窓会参加もしくは会費納入にどんな意味を持たせるのか価値を持たせるかは、今後考えて答えを出していくものと思っています。たぶんテーマごと、世代ごとの活動になるのかなと予感します。人とつながるということは、どの世代にとっても大事で、同窓会がどううまくそういう場を提供していくかでしょうか。

3 高校時代の一番の思い出

高校時代はたくさんの思い出がありますが、1番というとなかなか難しいです。あえて挙げるとすると、所属していた卓球班の同窓会館での合宿です。今では考えられないようなスペースに寝泊まりし、お風呂もシャワーもなく、練習が終わった後にプールの水のシャワーを震えながら浴びたこともよい思い出です。夜の時間帯は自由でしたので、同学年みんなで歩いて国道沿いのボーリングをしに行き、夜間の出歩きはスリルもあって楽しい数日でした。

た。卓球では団体戦は県大会まで進めませんでした。最終年で個人で県大会に行けたのもよい思い出です。同学年は男女共に仲が良く、卒業後も一緒にスキーや温泉に行ったりして、コロナ前は数年に一度は集まっていました。そろそろ還暦で、仕事や子育ても一段落しているので、また集まって楽しい時を過ごせればと思っています。

4 自身の近況

学校を卒業後、中断なしにずっと企業で勤務してきましたが、50歳を目標にリタイアしようとその10年前に決めました。主人と同時にリタイアです。といっても単に会社からの卒業であって、人生という意味では、学校そして会社に次いで第3ステージでしょうか。仕事は個人事業ということで、頼まれれば単発のプロジェクトや人事部長代行、社外取締役などを行っています。企業でのフルタイムとちがいベンチャー、日本の会社、非営利企業など経験したことがない分野を垣間見るのは楽しいです。自分の学び、ボランティア、家族との旅行など、リタイアしないとなかなかできない予定が、コロナで先延ばしで残念です。そういう制限の中で、人生をどう楽しむかが問われている感じです。



新型コロナの年にギリギリで行けたアンコールワット



自分の楽器でなく、ストラディバリを手に取って。見た目は一緒なのにすごい楽器でした！